令和６年　８月の園だより

すいこう認定こども園

お泊り保育を終えて
～子どもたちの心の成長～

７月 20 日の夏まつりは、朝から雨模様でしたがお天気の推移をみると、回復傾向にあり、開催時刻には晴マークも出ていました。それでも「また降ってきたね。」「今、上がったよ」などと、一喜一憂しながら準備を進めました。開催時刻には、午前中の雨がうそのように晴れ渡り、蒸し蒸しとしてとっても暑かったのですが、子どもたちはいつもと変わらず、最高の笑顔で来てくれました。その笑顔は、今から始まる楽しいお祭りへの期待が伺えるようでした。たくさんの方々で賑わい、ホールの床に座り込んで食事をされる方もおられ、大変心苦しく申し訳ない思いでしたが、月曜日には、「楽しかったですよ」とか、「おいしくて当日券も買いました」などといった声をお聞きし嬉しく思っています。反面、「とっても暑いので、開始時間を遅らせてはどうか」、「二部制にしてはどうか」などのお声もいただきました。参考にさせていただきながら、より楽しい夏まつりとなるよう、取り組んでまいります。

７月はわくわくすることが多く、年長さんはお泊り保育にも行ってきました。お泊り保育は、『いろいろな経験を通して「自分のことは自分でできる」という自信を持った子どもたちが、お泊りに参加することでさらに自信をつけ、就学を楽しみにする』ということを大きな目的として行っています。年長さんになって、さまざまなあそびを通して、お友だちと話し合い、協力し合って過ごしてきました。お泊りのグループ名を決めるときも自分の意見を通そうとして、なかなか決まらないグループもあったようですが、自分の気持ちに折り合いをつけたり、それぞれの思いを合体させたグループ名にしたりと自分たちなりに工夫をしたようです。実習に入っていた文教大学の学生さんも「年長になると、友だちの意見を聞いて話し合うということができるんですね。年長児さんって思っていた以上にすごい」と、驚いていました。グループリーダーも立候補で決め、「リーダーさんはみんなのお手本になるんだよ」と誇らしそうに話してくれ、小さな責任感が芽生えていることを頼もしく感じました。リーダーさんだけではなく、保護者と離れて過ごした１泊２日、「自分のことは自分でできた」、「僕は、私は、頑張った」という思いが全ての子どもたちにあったことと思います。予想以上に良い天気になり、熱中症対策に気を配りながらとことん遊びこんだ子どもたち。今年のお泊り保育もたくさんのエピソードがありましたので、ほんの一部ですがお伝えします。小さいクラスの保護者の方にも、ご自身のお子さんが年長さんになったときの姿を想像しながら、読んでいただきましたら幸いです。

エピソード１　芝滑り
滑りながらも考えてる子どもたち

おうちの方と一緒に作った自慢のそりを片手に斜面を登っていく子どもたち。上から見ると意外と急な斜面なのですが、誰一人躊躇することなく滑り降りていました。「キャー、キャー」と歓声をあげながら滑っていましたが、よく見ると「きゃー」という声は、子どもたちに誘われて、一緒にそりに乗せてもらっている先生たちの声でした。晴れていても前日までの雨で芝は少しぬかるんでいたので、バランスを崩して転がった先生たちの白いポロシャツは、背中が泥んこで茶色になっています。でも子どもたちに「一緒に滑ろう」と誘われると、斜面を登り繰り返し滑る子どもたちと先生たち。時折「お茶飲んでね。」と声をかけながら、芝滑りを楽しみにしていたのは、先生たちかもしれません。そんな中、Ｋくんが「滑らなくなった」とポツリ。初めは勢い良く滑っていたのに「なんで滑らないのかな」とつぶやきながらそりを点検してみると、何やらひらめいたような表情をしています。じっと見守っていると、そりを裏返して滑っていました。そうすると、初めのころのようによく滑ったのです。Ｋくんは、滑る面のビニールが破れていたので、裏返しにしたらいいんじゃないかとひらめいたのです。子どもたちは滑りながらも、「どうやったら速く滑るんだろう」、「あの子のそりは速いなあ」、「〇〇ちゃんと一緒に滑ろう」など、より楽しくなるためにいろいろなことを考えているのです。

エピソード２　自然探索
生き物博士がいっぱい

芝滑りの後、熱中症対策ゼリーでエネルギーチャージをして小川や林のある広場で探索活動を楽しみました。小川をのぞき込んでいると、カエルを発見。跳びはねるタイミングに合わせて、見事に両手でキャッチ。かえるだけではなく、イモリも素手で捕獲。生き物に詳しいＡくんは、「おなかが赤いからアカハライモリだよ。イモリの目に触ったら、目がかゆくなるから気を付けてね。」と、博士のように教えてくれました。少し奥に入った池には、小さなボールくらいの白い泡のような塊を発見。「これはね、モリアオガエルの卵だよ」と教えてくれるお友だちもいました。誰かに教えられたわけではなく、興味を持って図鑑などで調べたことはちゃんと覚えているのです。小さな生き物への興味は、学年が高くなるにつれて、大切に扱うことなど命についての学びも深まっています。捕まえたカエルやイモリは、元気なうちに川に返してあげていました。

お泊り保育を終えて

この二日間、子どもたちは、先生のお話をしっかり聞き、時折大学生ボランティアさんに手を貸してもらったり、友だち同士で声を掛け合ったりしながら、自分のことは自分でしようと頑張りました。何より、家庭では就寝時に紙パンツをはいて眠るというお子さんもこの日は勇気を出して、布パンツで眠り、おねしょは全員なし。小さな事かもしれませんが、目覚めた時の笑顔、どれほど自信になったことでしょう。そんな子どもたちの姿は、けなげで愛おしく抱きしめたいくらいかわいいと思いました。お泊り保育後の園生活では、あそびに積極的に参加するようになった子どももいれば、みんなと違う意見でも自分の思いを言葉にして発言するようになった子どももいます。また、プールでの顔つけに挑戦したいけどちょっぴり戸惑っているお友だちに、どこからともなく「頑張って」と声援が聞こえ、できた時にはみんなで拍手するなど、自分に自信を持ったり、友だちのことを思ったりする姿が多くみられるようになり、お泊り保育の大きな成果だと嬉しく思いますが、そうはいってもまだまだ生まれて５.６年の子どもたち。公共の場での過ごし方、友だちとの関り方など周りの大人が見守り、寄り添い、導いていかなくてはならないことがたくさんあると思います。残り半年になった園生活の中で、仲間とともに協力したり、けんかをしたり、自らあそびに関わり、困ったことがあったら、自分で考え、友だちに助けてもらいながら乗り越えていけるよう、保護者の皆さんと共に見守っていきたいと思います。

最後に、大きな事故もなくお泊り保育を楽しく終えられたこと、芝滑りに使うそりをさまざまな工夫やアイデアで作っていただき、お泊り保育を楽しく、わくわくした気持ちで過ごせるよう後押ししてくださった保護者の皆さんに心より感謝いたします。

園長　上原玲子

平和について考える

今年も平和公園では、79 回目の平和祈念式典の準備が始まっています。戦争を知らない私たちは、子どもたちと夏まつりや水あそびなどさまざまなあそびを無心に楽しんでいます。とてもありがたいことですが、今、争いが起こっている国の子どもたちは、ちょっとした物音におびえ、食べるものさえないのです。笑顔なんてできるわけもなく、不安で不安で小さな胸は張り裂けそうなことでしょう。私は、「今日も子どもたちと楽しく過ごせた。子どもたちの笑顔を見ることができた。」ということが普通であることに感謝し、それがこれからもずっと続くことを願っています。そして、子どもたちの笑顔がいかに尊く、その笑顔を守ることがどれほど大切なことなのか感じながら過ごしていきたいと思います。

絵本からのメッセージ

シュモーおじさん

当園でお世話になっているとこ先生が描かれた絵本です。

へいわとせんそう

平和についてわかりやすく、子どもたちと一緒に考える絵本です

ぼくがラーメンたべてるとき

他の絵本とは違った角度から戦争と平和について伝えてくれています。